

第 39 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2017. 10. 05 薦田 麻莉子

サノフィ株式会社

完全ヒト型抗 PCSK9 モノクローナル抗体

[高コレステロール血症治療剤]

『プラルエント』

サノフィ株式会社 笠崎 舞さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢丞先生、内科職員さん、熊山ともみ、空田さやか、細川亜希子、薦田麻莉子

LDL コレステロール (LDL-C) 値の低下量と冠動脈疾患リスクは関係あり、低ければ低いほどリスクが低下するといわれている。そのため、心血管疾患を予防するためには厳格な LDL-C 管理が非常に重要である。しかし、現在の標準治療では LDL-C 値が十分に低下しない患者がいる。

今回は、肝細胞の LDL の吸収を増大し、血中 LDL-C を低下する『プラルエント』を紹介する。

〈効果・効能〉

家族性コレステロール、高コレステロール血症

ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA 還元酵素阻害薬で効果不十分の場合に限る。

〈用法〉

通常、成人にはアリロクマブ(遺伝子組み換え)として 75mg を 2 週に 1 回皮下投与する。効果不十分な場合に限る。

〈特徴〉

- ・ 血中 LDL コレステロール濃度を調節に関与する PCSK9 を標的としたヒト IgG の完全ヒト型モノクローナル抗体である
- ・ PCSK9 に結合し、LDL 受容体への PCSK9 の結合を阻害することにより、血中 LDL コレステロールを低下させる

- ・既存の脂質低下療法でコントロールが不十分な家族性高コレステロール血症ならびに冠動脈疾患の既往を有する高コレステロール血症患者における LDL コレステロールの低下
- ・2週間に1回投与する皮下注射剤で、2種類の剤形（ペン及びシリンジ）それぞれに2つの規格（75mg 及び 150mg）がある

〈副作用〉

注射部位反応（紅斑、発赤、腫脹、疼痛、圧痛、そう痒）（12.6%）、うっ血性心不全（0.7%）、糖尿病（0.7%）等。

〈考察〉

従来、2週間に1回受診し、病院、クリニックなどの医療機関で投与しなければならなかったが9月から在宅での自己注射が可能になった。そのため、薬剤師からの服薬指導が重要となる。特にペンを室温に戻すなどの使用工程を飛ばしてしまう恐れがあるため使い方を定期的に確認する必要がある。

また、投与間隔が2週間と打ち忘れの懸念があるため、投与する日程を確認しコンプライアンス向上につなげたい。